

様

年 月 日

カルボプラチンとエトポシド併用療法

この治療では次の2種の薬を使用します。

カルボプラチン注：細胞のDNAに作用し効果を現します。

エトポシド（ラステット注）：細胞のDNAに作用し効果を現します。

＜投与スケジュール＞ . . . 4週間 1コース

今回 コース目

| ＜薬品名＞ ＜投与方法・時間＞ | ＜薬の作用＞ | 1コース目 | | | | 2コース目 |
|---|--------|---|---|---|---|---|
| | | 1日目 | 2日目 | 3日目 | | 29日目 |
| グラニセトロン注・デキサト注＜点滴静注＞ | 吐き気止め |  | | | 休薬 |  |
| エトポシド [®] 輸液500ml ＜点滴静注120分＞ | 化学療法剤 |  |  |  | 休薬 |  |
| カルボプラチン [®] 生食500ml ＜点滴静注120分＞ | 化学療法剤 |  | 休薬 | |  | |

＜薬剤投与日の注意＞

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

＜備考＞

<副作用>

| 副作用と症状 | 頻度 | 対策 | 備考 |
|--|------------------------------|--|----|
| 白血球減少 発熱 風邪様症状 | 重度約40% (1000以下の好中球減少約90%) | うがいや手洗い・休養を心がけてください。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。 | |
| 血小板減少 出血 | 重度約10% | けがや打ち身、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。 | |
| 貧血 倦怠感、息切れ めまいなど | 頻度は低い | 採血結果によっては、造血剤の使用や輸血を行います。 | |
| 吐き気・嘔吐 | 重度約2% | 我慢をせず吐き気止めを使用してください。 | |
| 口内炎 | — | うがい薬や口内炎用塗り薬を使用してください。 | |
| 過敏症（アレルギー） 顔がほてる、息苦しい、 胸が苦しい 発疹、かゆみなど | — | 予防薬を使用しますが症状があればすぐに申し出てください。 | |
| その他：間質性肺炎、肝障害、発熱、脱毛、下痢、便秘、神経障害など | | | |

▶ カルボプラチン等の白金製剤で起こる過敏症は数コース治療後に起こすことがあります。

ここにあげた副作用は、代表的なものです。万一副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申しでてください。

